日本財団 THE NIPPON FOUNDATION　海と日本 PROJECT

千葉の海辺 新聞コンクール

■執筆・紙面構成　山本　杏奈　船橋市立若松小学校４年

兵士とむらう雪どけ塚

ヘビゆかりの寺社巡る

船橋市内の児童が、地元に伝わる民話「雪どけ塚の白ヘビ」をテーマに取材や写真撮影など新聞制作に挑戦した。日本財団などオールジャパンで推進する「海と日本プロジェクト」の一環で、国内に残された海にまつわる「民話」「伝承」を選定し、子どもがさらに次世代へと伝える機運醸成を狙っている。船橋市立若松小学校４年の山本杏奈さんが執筆した紙面を紹介する。

私は、船橋市にある長福寺と日枝神社を訪れました。

長福寺は民話「雪解け塚の白蛇」にも出てきたでお寺です。夏見地区にあり、「夏見山」という山号で親しまれています。

昔、この場所には夏見城という城がありましたが、戦争でなくなり、その跡にお寺ができ、ここにある塚が「雪どけ塚」といわれるようになりました。なぜ「雪どけ塚」と呼ばれるようになったのでしょうか。実は、ここには戦国時代に亡くなった兵士の墓があり、そこだけ雪が降っても積もらないと言われて「雪どけ塚」と言われるようになったのです。

「わらへび」が巻き付けられた日枝神社の鳥居

次に日枝神社について、紹介します。日枝神社は長福寺のすぐ近くにあります。この神社の鳥居には、わらでできたへびがあります。「わらへび」は左方向に向いていて、その方向の先にあるのは伊勢神宮だそうです。なぜ、「わらへび」が作られたのかというと、農作物がたくさんとれますようにと願いが込められています。

私が面白いな、と思ったのが庚申塔（こうしんとう）です。庚申塔というのは、いろんな場所から、仏様や明王様を集めて来たと言われています。神様が、一ヶ所に集まってるのが、すごいな～と思いました。

漁が盛んな三番瀬

多様な生物、今も生息

昔から漁が盛んだった「三番瀬」を紹介していきたいと思います。

まずは、コメツキガニです。動く姿からそう名付けられました。三番瀬では、よく見るカニで、砂の中にいるプランクトンを食べているそうです。

次に、「サギ」を紹介します。三番瀬の生物の種類は96種類いて多くの鳥が飛来します。その中よく見るのが、サギです。大きさは大、中、小とあり、三番瀬では、その中でも大と小が、よく見られます。お腹に石を入れて、ご飯を食べます。実は、三番瀬にある「ふなばし三番瀬海浜公園」は、人口干潟なのです。

三番瀬は、明治時代には塩を作る塩田が多かったそうです。

またなぜ三番瀬と呼ばれるのか、ですが、浜から3番に近い瀬があるから、昔の漁師たちが三番瀬と呼んでいたともいわれています。

干潟の生物や歴史を紹介する「ふなばし三番瀬環境学習館」の担当者

漁師の目印、灯明台

船橋大神宮　きれいな眺望

かつて漁師の目印として活躍した「灯明台」

船橋大神宮は、神話の時代である景行天皇のころにできました。神様は、トヨウケビメという作物の神様でした。ヤマトタケルノミコトが戦勝祈願を願った場所でもあります。

そしてその場所には、明治時代に出来た灯明台という灯台がありました。昔は灯台に火をともし、海で漁をしている漁師たちに戻る場所を教える役割をしていたといいます。灯明台の光はなんと12キロメートル先までとどいたそうです。

灯明台は今ではもう使われていませんが、1月1日か3日まで一般開放されています。私も1月1日に灯明台に入ってきました。中は思ったよりも広くて、ちょっと新しくて、あと階段がとても急で、景色がきれいでした。でも海の方は、家がいっぱいで海が見れませんでした。昔が見れたんでしょうね。

編集後記

ドキドキ記者経験

船橋市立若松小学校４年　山本　杏奈さん

山本杏奈さん

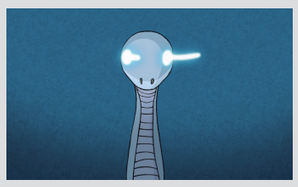
私は、初めて記事を書くのをドキドキしました。

でも実際に取材をしてみると、取材がとても楽しくて、特に日枝神社にある鳥居のへびが面白かったです。

そんな楽しい盛り沢山な取材や記事を書くことがとても楽しかったです。またやりたいです。そして忙しい中、わざわざ私たちのために、記事の書き方を教えてくださった記者の皆さん、どうもありがとうございました。

海と日本プロジェクト

さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、ときに心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海で進行している環境の悪化などの現状を、子供たちをはじめ全国の人たちが「自分ごと」としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、日本財団、総合海洋政策本部、国土交通省の旗振りのもと、オールジャパンで推進している。



「雪どけ塚の白ヘビ」のワンシーン

雪どけ塚の白ヘビ

昔、夏見城を囲む土塁の近くに「雪どけ塚」と呼ばれる不思議な小高い塚があった。松の木の根元の穴に住む白ヘビは夜になると姿を現し、光る目の美しさと、やさしく気品のあるたたずまいで村人を魅了していた。ある日、出漁していた漁師が嵐に遭い、沖に流された。遠方に見つけた青い光を白ヘビの目だと信じて死に物ぐるいでかいをこぎ続けた…。

一般社団法人 日本昔ばなし協会